



日本聖公会婦人会 2022年2月28日発行
ニュースレター No. 74

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 2-1-8 日本聖公会大阪教区事務所内
TEL 06-6621-2179 FAX 06-6621-3097

「自ら学び、根を張らせるために」



聖公会神学院 校長
司祭 アンデレ 中村邦介

主の平和

いつも神学生の学びの為に祈りまたご支援を頂き、心より感謝申し上げます。神学書は一般書籍と異なって発行部数も少ないためとても高額になる傾向があり、皆さんから頂いた書籍購入の支援は、神学生には本当に有難く活用させて頂いております。

これは神学生に限らないことですが、現在の IT 社会の普及によって確かにとても便利になりましたが、同時に「自ら考える」世界がどんどん狭く浅くなってきているように感じています。何かを知ろうとすれば、即座に「探す」「調べる」ためにパソコンに向かいます。自分で考える前にどこかに答えがないか、探すことに心が奪われてしまいます。ある人の言葉を借りれば「このような知識や情報は、私たちがいつの間にか一種の新しい思考停止状態に陥らせている」のです。

神学生にとって、書物を通して学ぶことの意味は大きく三つあると、私は考えています。一つは「自ら考える」ことによって、自分なりの考え方の軸や信念を「根っこ」のように祈りつつ掘り下げていくことです。二つ目は読書の経験は、人との関わりのある方にパラレルなところがあります。自分勝手に理解したり、相手（著者）の述べたいことを曲解したり、全く相手のことを丁寧に聴き取っていないことが起こります。このような意味で、浅薄な批判や思い違いや憶測を正して、著者にしっかり耳を傾けることは、人との関わりに深く通底しています。三つ目はこれが最も重要なことですが、本を読んで知ることは、自分が「変わる」という出来事を含んでいるのです。ただ知る、情報を得る読み方と違って、それを知ることによって、これまでの自分ではすまなくなる、自分が新しくされる経験です。それを知ったことによって、自分の中に大きな転換が生れてくるのです。そしてこのような書物との出会いこそ、神学生にとって本質的な意味をもっています。特に神学の学びは知識を増やし、情報を得るようなことにとどまらず、知ることが信ずることに深く結びついているからです。自らの信仰が問い直され、挑戦を受け、戸惑いと揺さぶりの中で試みられつつ、神と人ともに仕えていく奉仕職への道が次第に整えられていくのです。「自ら考える」という根を張らせていく学びが、信じて生きる、信じて仕えることを豊かに促し成長させることを、私は確信しています。



2021年度被献日献金活用実施報告



被献日献金から学びの支援をさせていただいた方々の報告をお届けいたします。2022年度の申請をご検討される方々のご参考になればと思います。

《 神学生枠 》



ウイリアムス神学館 3年

さとう みつる
ダビデ 佐藤 充 (九州教区)



日頃から、私達神学生に対し様々な形でご支援いただき、ありがとうございます。被献日に献げられた尊い献金により、必要な文献を購入することができました。神学校生活における3年間で、今後の学びと働きに必要な本を揃えることが出来ました。

特に今年度は、教会で働くようになった時に、より実践的に使えるものを中心に揃えさせていただきました。月本昭男総監修『ビジュアル大百科 聖書の世界』は、聖書の話をもっと視覚的に見られる上に、聖書学の立場での解説もされていることから、こども達に聖書のお話をする時等に役立ちます。また、昨年に引き続き聖書注解書を購入させて頂き、聖書学の授業や説教論の授業で活用させて頂いています。注解書は筆者によって見解が異なるので、何冊も見比べなくてはいけないので、複数揃えることが出来て大変助かっています。また、神学校での授業だけではなく、教会に遣わされてから、礼拝でお話をさせて頂く際や、聖書研究会などでも必要となっていくと思われます。そういった意味で、今後の働きに繋がるものを準備することができ、とても心強く思っています。

今回、購入させて頂いた本を活用し、さらに学びを深め、教会での働きに備えることができる様、残り少ない神学校生活でも良い時を過ごして参りたいと思います。





ウイリアムス神学館 2年

ステパノ ^{たかの ひろし} 高野 洋 (横浜教区)



婦人会を通じた学ぶ者を支える働きに心から感謝致します。

世界中がコロナ禍で様々な困難を抱え、多くの皆さんが不自由な日々を過ごされている中、学びの場が与えられ学ぶことが許されていることを有難く思います。

神学校での学びも2年目に入ってみますと、先生方の話が理解できるようになってきている事を感じます。確かな先生方とカリキュラムの中に、神学を学んでいく上での必要な要素が組み入れられていたことに思い至ります。有難いことに2年生以降の授業を受けるための、また図書を読み解くための基礎学力を得させて頂いているのです。とは言え、まだまだよちよち歩きです。このような形で支えて頂いていることを頼りにしながらも、学びを継続させて頂くべく今年も申請をさせて頂きました。

今回はより広範な神学領域を学ぶために各領域の先生方より推薦のあった書籍を選ばせて頂きました。購入させて頂いた書籍(*)は、さっそくレポートのための参考にさせて頂くとともに、私なりに授業内容を補足理解するために活用させて頂いており、大きな助けとなっています。

最後に日本聖公会婦人会の働き、また婦人会の皆さまに主の祝福がありますようにお祈り申し上げます。

(*)『キリスト教神学入門』(教団局)、『旧約聖書神学I・II』(教団局)、『聖書学用語辞典』(教団局)、『新約聖書解釈の手引き』(教団局)、『キリスト教の礼拝』(教団局)、『イングランドの宗教』(教文館)



ウイリアムス神学館 2年

サムエル ^{ふじいかずひと} 藤井和人 (京都教区)



主の平和がありますように。

この度は、被献日献金活用の申請を承認していただきありがとうございます。今回は、E・A・リヴィングストン編(木寺廉太訳)『オックスフォードキリスト教辞典』教文館、樋口進他監修『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、山内眞監修『新共同訳新約聖書略解』日本基督教団出版局、F・B・クラドック(宮本あかり訳)『ルカによる福音書(現代聖書注解)』日本基督教団出版局、G・S・スローヤン(鈴木脩平)『ヨハネによる福音書(現代聖書注解)』日本基督教団出版局の5冊を購入させていただきました。『オックスフォードキリスト教辞典』におきましては、特に今年度受講しております教理学や聖公会論での学びに、また『聖書学用語辞典』、『新共同訳新約聖書略解』、二冊の現代聖書注解におき

ましては、新約釈義や旧約神学での学びに、さらに教会実習での勧話の準備に活用させていただいております。

これらの文献を通して、日々新たな神学的洞察や神学的理解が与えられていると実感しております。神様と人々に仕えていくとはどういうことなのか、これからも自分自身の有り様・生き方を模索し続けながら、神様と人々との出会いを大切に、引き続き神学館での学び（礼拝・生活・神学）に取り組んで参ります。

いつもお祈りの内に、また多方面にわたりお支えをいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、日本聖公会婦人会に連なるすべての方々に神様の豊かな祝福とお恵みがありますようにお祈りいたしております。



ウイリアムス神学館 2年

ダビデ やん くおんも 梁 権模 (京都教区)



いつも私たち神学生をおぼえご加禱いただき、殊に被献日献金を通して学びを支えていただいておりますこと心から感謝申し上げます。

今回私は被献日献金を活用し、『Bible Dictionary』、『The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon』、そして『A Greek-English Lexicon of the New Testament and Other Early Christian Literature』を購入させていただきました。これらの書籍はすべて辞典類です。

まず、一つ目の書籍は英語圏における著名な聖書に関する辞典です。この書籍は日本語の『聖書辞典』に収録されていないことについても収録されており、またその内容が分かりやすい英語で解説されています。本書は特に「旧約神学」という授業の課題において非常に役に立っております。

二つ目と最後の書籍は、聖書ヘブライ語の辞典とギリシア語の辞典です。今年度よりヘブライ語の講義と「新約釈義」という講義が始まったので、各々の講義に備えようと購入させていただきました。これらの書籍には聖書ヘブライ語及び新約時代のギリシア語に関するあらゆる語彙が収録されています。そのため、授業で出された翻訳や釈義の課題で活躍してくれています。

日本聖公会婦人会の皆様の尊いお働きに主の恵みが益々ありますようお祈りしております。





ウイリアムス神学館 1年

クララ おのきょうこ 小野恭子 (京都教区)



いつも私たち神学生の事をお支え・お祈りくださり、本当に有難うございます。
またこの度は、貴重な「被献日献金」を書籍代として使わせて頂けたことを、心より感謝申し上げます。

頂きました書籍代で、『出エジプト記 1～18 章』、『出エジプト記 19～40 章』、『列王記上 1～11 章』、『コヘレト書』(以上 VTJ 旧約聖書注解)、『ルカ福音書 1 章～9 章 50 節』、『ガラテヤ書簡』(以上 NTJ 新約聖書注解)、『新約聖書解釈の手引き』の 7 冊を購入しました。

2021 年 4 月ウイリアムス神学館に入学が許され、この原稿を書いている時点で約 8 ヶ月経ちました。入学前はどちらかと言えば、文字よりも楽譜を追っていたような生活でした。現在も神学に対しては「いろは」の「い」の一角目を書こうとしている状況、と言えるでしょうか……。

「何が何でももう慣れたでしょう？」と思われるかもしれませんが、実はまだまだ「慣れた」と言えない生活状況です。周囲の方々、いや誰よりも自分自身が「本当に大丈夫なのか？」と思いつつ、何とかよたよたとしながら日々暮らしております。そのような中でも、京都教区センター等で時々お会いする「この文章を読んでいるの方々」に励ましの声をかけて頂き、私の心は有難さと嬉しさ、そしてほんの少しの申し訳なさでいっぱいです。

「本当に大丈夫？」な日々が続くと思いますが、この度購入させて頂いた書籍を心の糧に、日々勉学に励みたいと思っております。

皆さま、これからも何卒宜しくお願い致します。



ウイリアムス神学館 1年

エステル たいら よしこ 平 良子 (京都教区)

平素よりお世話になっております。ウイリアムス神学館 1 年生の平良子といたします。

入学したときは、右も左もわからず、先生たち、先輩たちにこの被献日の図書のことを聞いて 2 冊ほど選ばせていただきました。『新説旧約聖書注解書』と『ハーパー聖書注解書』です。

『新説旧約聖書注解書』は、これから聖書を勉強するにあたって旧約からと思い、選びました。

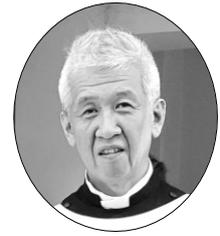
『ハーパー聖書注解書』は、創世記からヨハネの黙示録までの注解書ですので選びました。

入学して半年となりますが、いまだに慣れなくて、失敗ばかりです。腰を据えて本をたくさん読もうと思いましたが、なかなかそうはいきません。聖書を読むと学ぶは違って、ただ読むだけなら心の中ではわかっている頭の中でははっきりとわからないことが多いです。この注解書ははっきりと用語を説明してあるので聖書を学ぶときの大いに助けになると思い、希望しました。感謝します。



聖公会神学院 2年

パウロ ふくなが すみ 福永 澄 (東京教区)



主の御名を賛美します。

日頃よりお祈りのうちに覚えてくださいますこと、そしてご支援をいただきまして、ありがとうございます。

この度は貴重なお献げ物である被献日献金によって、8冊の書籍を購入させていただきましたこと、感謝をもってご報告いたします。

『牧会学入門』チャールズ・ガーキン著

『牧会者の務めとスピリチャリティ』ケネス・リーチ著

上記の2冊は2年次必修科目である「牧会学」での教科書でした。これらの本から、牧会者としての心構えをしていく上で大切な学びを得ることができました。

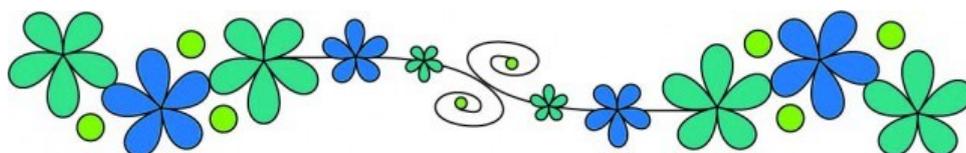
『宣教学入門』レスリー・ニュービギン 著

『キリスト教 本質と歴史』ハンス・キュンク著

『宣教学入門』は、全学年共通必修の「総合ゼミ」の前期のテキストとして活用させていただきました。また、『キリスト教 本質と歴史』は、昨年に購入していただいた『宣教のパラダイム転換』と同様、宣教の歴史を理解する上で参考となるもので、個人的に学びを深めるために購入させていただきました。

上記のほか、『旧約新約聖書大事典』は日々の調べ物に使わせていただいていますし、『生と死 現代キリスト教倫理』は「キリスト教倫理」の学びに役立つものでした。さらに、個人的な神学研究として購入させていただいた『新約聖書 訳と註』田川健三著、『義認の未来』ジョン・バイパー著は、卒業時の論文作成に向けた学びに活用させていただいています。

皆様のお支えに感謝しつつ、これらの書籍での学びを土台として、これからも学び続けてまいりたいと思います。最後になりましたが、日本聖公会婦人会のお働きと、お一人ひとりの上に神様の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。





聖公会神学院 2年
そめやたかあき
 セバスチャン 染谷孝章 (横浜教区)



主のみ名を賛美いたします。

神学院礼拝堂入り口の紅葉が日々色を深め、朝の礼拝を終え外に出る頃にはちょうど陽の光に葉が透けて美しさが増えています。

改めまして皆様のお祈りとお支えを切に感謝申し上げます。

特に今年も歴史ある被献日献金の尊いお支えを本当にありがとうございます。申請を認可頂き、手元に届きました書籍は『宣教学入門』(ニュービギン)、『宣教師ウイリアムズの伝道と生涯』(大江満)、『コロナ時代の哲学』(大澤真幸)、『キリスト教文書資料集』(ベッテンソン)、『牧会学入門』(ガーキン)、『宣教のパラダイム転換』上下(ボッシュ)となります。これらの書籍は神学院の先生方から教材として、また参考図書としてご紹介頂いたもの、また横浜教区の司祭様から紹介いただいたもので、興味深く常に手にとって大事に読み進めております。

ところで、11月1日の諸聖徒日に神学院創立110年記念礼拝が捧げられたのに合わせ、歴代卒業式の記念写真が教室に展示されていました。聖職者、先生方、そして学生お一人お一人の顔をその時代に生きてこられた時代背景を想像しながら拝見いたしました。私たち現学生4名もそれぞれの経歴をたずさえて、この学舎に集められ、COVID-19の最中にあっても教職員の方々のご尽力のうちに祈りと学びの共同生活を送っております。

私もその中で、今までの殻を破られ、そして励ましをいただく、それが繰り返される日々を送るうちに、はや神学院生活も折り返しを過ぎました。正直自分は今のままでいいのかという不安な気持ちをあげ出したら切りがありません。がこの先も神様と、そして先生方、同僚の皆様の励ましを頼りに前を見据えて歩んで参ります。

皆様とご家族の上に主にある平安が豊かにありますように、用賀よりお祈り致します。主に感謝



聖公会神学院 1年
なかやますお
 パウロ 中山泰男 (九州教区)



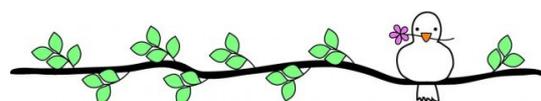
日本聖公会婦人会の被献日献金活用によって、神学生に学びの機会が得られるようにと資金的援助を与えてくださったこと、そのお支えに感謝し主の御名を賛美します。

2021年度の一年生聖公会神学院に入学いたしました中山泰男と申します。この度、貴重なお献げ物

である被献日献金を財源として、13冊の書籍を購入させていただきました。これは神学院指定の教科書や参考図書ばかりであり、感謝をもってご報告いたします。詳細は以下の通りです。

- 『宣教学入門』レスニー・ニュービギン著
一年次必修科目である総合ゼミにおいて、「牧会」の基礎となる考え方や聖職者としての姿勢を学び取るテキストとして使用しました。
- 『イングランドの宗教—アングリカニズムの歴史とその特質』塚田 理著
一年次必修科目である「聖公会論」の授業で用いるテキストです。ローマ・カトリックから離れ、英国国教会の創設と現在までの流れを理解するとともに、聖公会の特徴である「聖書」、「伝統」、「理性」を大切にす宗教であり、中道(ヴィア・メディア)であり、寛容であることを学ぶことができました。
- 『旧約聖書入門』(上・下巻) W・H・シュミット著
一年次の必須科目で用いるテキストです。古代イスラエルの民から生み出された文書群、旧約聖書の全巻を学び取ります。
- 『旧約新約聖書神学事典』小塩 力著
三年間の学業を通じて、聖書内に記された御言葉の意味を表面的でなく神学的な学びを深めるために用います。
- 『新約聖書ギリシア語入門』大貫 隆著
一年次の必須科目であり、ギリシア語の講義を受ける際に必要となるもので、神学院指定の参考図書の代表的なものです。
- 『心を神に』加藤博道著、『ミサ』J・A・ユングマン著、『ミサ神の愛の確認』インドロ著
これは一年次必須の教会の礼拝や教会実習で必要となる動作習得や教会内における常識を学びます。
- 『聖公会の聖歌いのち奏でよ』宮崎 光著、『教会音楽ガイド』越川弘英著
一年次の教会音楽の学びで使用される専門書です。聖歌の歴史や礼拝で選曲の際に大いに役立つものです。
- 『聖書の奇跡物語—治癒の神イエス誕生』山形孝夫著、『全人医療とスピリチュアル』田頭真一著
一年次必須の「黙想」や「実習1-2」で使用されるテキストとして活用させて頂きました。

私は、仕事を辞してこの世界に飛び込みました。援助して頂いた書籍以外の参考書や辞典を購入しましたが、収入のない神学生にとって学業への支援は、残された家族の生活の支えにも通じます。一年生である私にとっての学びは、まだ始まったばかりです。皆様のお支えに感謝しつつ、これらの書籍での学びを基礎として、これからも学び続けて参りたいと思います。最後になりましたが、日本聖公会婦人会のお働きと、お一人ひとりの上に神様の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。





聖公会神学院 信徒の奉仕・召命コース
おがわけいこ
ルシア 小河佳子 (北海道教区)



今年度、信徒の奉仕・召命コースに入学いたしました小河佳子と申します。私たち神学生を毎年支えて頂きありがとうございます。この度、被献日献金により、10冊の書籍を購入させて頂きました。どの本も授業に使わせて頂き感謝です。

『キリスト教史フスト・ゴンザレス 上・下巻』は、教会史のテキストとして使っております。教会の歴史が簡潔にわかりやすくまとめられたテキストです。

『新版総説新約聖書』は、新約聖書の参考書として使わせて頂きました。

『典礼と秘蹟のハンドブック』及び『聖ヒポリュトスの使徒伝承』は、教会の礼拝の参考書として使わせて頂きました。

『キリスト教神学入門』は教理のテキストです。大変難しいテキストでしたが、聖書の教えを論理的に体系的に学ぶことができました。

『ギリシャ語・英語インターニア新約聖書』はギリシャ語で使わせて頂きました。英語とギリシャ語ですので、今後も使うことになると思います。

『現代聖書講座』第1巻は聖書の風土・歴史・社会です。第2巻は聖書の方法と諸問題、第3巻は聖書の思想と現代です。このシリーズはどの授業でも参考となりました。特に私は、旧約聖書と教会史で参考書として何回もページをめくりました。著者が木田献一、荒井献、月本昭男、小林稔、青野太潮、木幡藤子先生方ですので、内容にも文章にも引き込まれました。

購入させていただいた書籍は、講師の先生方のおすすめの書籍でしたので、今後の教会生活にも充分役立つものばかりで大切に使わせて頂きます。

私は婦人会で「神学生のために使われるのよ」と伺っていたのですが、自分がこの献金を使わせていただくことになるとは思っていませんでした。日本聖公会婦人会の働きに感謝すると同意時に誇りに思います。



《 教区婦人会枠 》

横浜教区婦人会
会長 黒田則子

横浜教区婦人大会

横浜教区婦人会は、2020年度と2021年度に被献日献金活用を教区婦人会枠で申請して、計12万円を頂きました。心より厚く感謝申し上げます。

教区の婦人大会は隔年ごとに開いています。昨年2021年10月20日に「教区婦人大会」を開催し、その運営のために被献日献金を使わせて頂きました。

コロナが猛威を振るっている中で、今までのように多くの人が集まるのは無理でしたので、Zoomを利用しての大会を実施しました。二つの大きなプログラムを考え、一つはガンバの会で働いていらっしゃる鹿島美紀子さんのお話を聞くこと、もう一つは「テゼの祈りと黙想の集い」の世話人をなさっている植松功さんのご指導で祈りのときを持つことです。ガンバの会は、生活困窮者やホームレスの自立支援を行っている認定NPOで、横浜教区婦人会が感謝箱献金の奉献先として申請し承認された会です。その他のプログラムとしては感謝箱献金のアピールと、小田原と静岡の二教会がコロナのもとで婦人会としてどのように活動しているかを紹介して頂きました。

技術面に疎い私たちを支えてくれた強力な助っ人が柏聖アンデレ教会の^{あしだのぶひろ}蘆田信裕さんと市川^{よしだたけし}聖マリア教会の吉田毅さんです。お二人がいらっしゃらなければこの婦人大会は実現できなかったでしょう。お二人と役員が和やかに協力し合い、大会を運営出来たことは新しい婦人会への道かもしれません。

参加者は約100名でしたが、Zoom環境の整っていない方が取り残されることのないように、「婦人会だより」に大会の内容を詳しく載せて配布しました。また教区HPに大会の動画を字幕、手話付きで1か月半載せて頂きました。

大会を終えた後、参加者に感想を寄せてもらいましたが、コロナで教会に集うのが難しい中で、多くの信仰の友の顔を見ながら学びと祈りの時をもてたと喜びを語る方が多くいらっしゃいました。私たち役員はメッセージに大いに励まされ、大会のために頑張ったよかったですと安堵しました。コロナの中でも神さまは新しい道を開いてくださったと感謝の念に満たされています。

被献日献金は講師への謝礼、機材提供と開催協力者への謝礼、会場教会への謝礼、お車代などに使わせて頂きました。



植松功さんによる「テゼの祈りと歌」

大阪教区婦人会
会長 鈴木久美子

大阪教区婦人会は、二つの働きのため被献日献金を申請しましたので、報告します。

毎年10月の聖ルカの日「秋の修養会」を開催しています。2020年度はコロナ禍のため、中止となりました。講師をお願いしておりました、畑野研太郎氏（芦屋聖マルコ教会信徒）に再度お願いし、快くお引き受けいただき、2021年10月18日に石橋聖トマス教会で、感染対策のため人数を制限して開催できましたことは、本当に感謝でした。

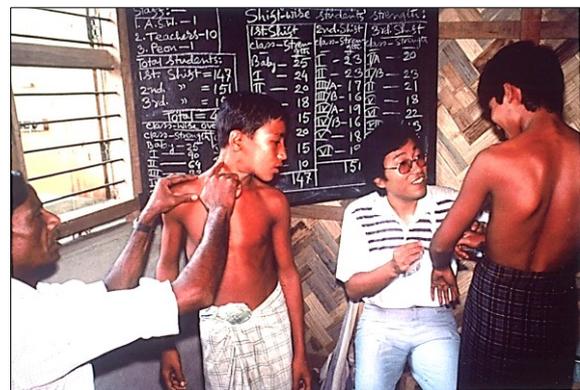
畑野先生は、日本キリスト教海外医療（JOCS）バングラデシュ派遣ワーカーとして10年間働かれ、帰国後、国立療養所邑久光明園で勤務されました。退職後はJOCS会長や、ライフ・リバーの活動を続けておられます。派遣先のバングラデシュで困難の中にある人々のなかにこそ神様が共におられ、その人々と共に生きる（みんなで生きる）ことが本当に生きることなのだと実感されたそうです。その生き方を日々の信仰生活で貫いていらっしゃる事が伝わってきて、思わず姿勢をただしました。たくさんの気づきを与えて下さったお話と、久しぶりに集会が出来たことで、皆の顔が生き生きしていたとチャプレンが言って下さいました。



畑野研太郎氏



働いていた病院「クリスチャン・レプロジー・センター」
チャンドラゴーナキリスト教病院という総合病院の敷地の中



「学校検診にて」（1988年頃）
クリスチャン・レプロジー・センターで働いていた時

1923年11月1日に「大阪教区婦人補助会結成大会」が開催された記録をもとに、2023年11月1日を組織成立100周年記念日とすることになりました。記念聖餐式を執り行うことと記念誌を作成することを計画し、準備委員会を開催しています。

この二つの働きのため、被献日献金を使用させていただきました。ありがとうございました。

《 コア枠 》

わたしたちをつなぐ「感謝箱献金」

感謝箱献金事務局 (コア)

運営委員長 井田涼子

「感謝箱献金 130 年のあゆみ」のポスターをぜひ、ご覧ください。日本聖公会婦人会が感謝箱献金の活動によって宣教の働きを支援し続けてきたことがわかっていただけたと思います。今後も「日々の感謝と祈りの献金」の活動が日本聖公会の信徒の方々にも広がっていくことを願っています。困難な状況にある人々とつながりながら共に生きていくことができますように。

「なぜ、感謝箱献金事務局の活動に、被献日献金を用いるの？」

感謝箱献金事務局はお献げ先の方々と互いの顔の見える関係をめざして活動しています。そのためにはスタッフが現状を良く知る事が重要です。機会があれば、お献げ先を訪問したり、現地から人を招いて報告してもらうこともできます。感謝箱献金に参加する人とお献げ先の人たちがお互いを理解しながら、主にある友として、つながっていくことを期待しています。

編集後記

世界中が新型コロナウイルス感染症に蔓延され、オミクロン株感染者急増に伴う重症者、死亡者が増加する暗いニュースの多い中、皆様いかがお過ごしでしょうか。

冬季オリンピックが北京で行われ、オリンピックの奮闘する姿にしばし魅入られ、力づけられることもありました。

原稿をお寄せいただきました 10 人の神学生の方々、2 教区婦人会の皆様、本当にありがとうございました。お名前の前に聖書に出てくる植物の中の実をつける植物のイラストを付けさせていただきました。

神学生の方々が、大きな、大きな実を結ばれることとなりますように、各教区婦人会の皆様の希望の実となりますようにと祈りつつ。

皆様くれぐれもご自愛くださいませ、早期のコロナ終息を切にお祈りいたします。

(書記 ルデヤ 川村直美)



日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。
『ニュースレター』、『ガリラヤのほとり』も掲載しています。
ぜひご覧ください！

<http://www.nskk.org/fujinkai/>



日本聖公会婦人会ホームページ